

がまごおり「みらいキャンバス」は図書館・ホール・生涯学習センターの機能を核とした、市民の居場所・活動拠点となる場を形成する複合施設建設プロジェクト。
ただいま検討を進めている基本計画の進行状況をお届けします！



第4回 市民ワークショップ

2025 年6月22日(日) に、第4回市民ワークショップを開催しました。10代から80代まで、「みらいキャンバス」に興味を持つさまざまな市民の方21名が参加しました。

冒頭では、第3回ワークショップの振り返りと、現在検討を進めている基本計画の進捗や関連する取り組みについて、共有を行いました。

ワークでは、3回目のワークショップで選んだ活動を実際に企画書にしました。具体的な内容を考えることで、実施に向けてやるべきこと、考えるべき課題が見つかりました。

また、開館前から、そして開館後も市民の方が「やりたい！」と思った活動を実施できる市民共創のプラットフォームについて、前回のワークショップを踏まえ、拠点づくりを進めることとなりました。

拠点で企画を実現するために必要な家具・備品、機器、本・資料や、拠点の名前について、グループで意見を出し合いました。

テーマ

- ①みらいキャンバスで
やってみたいことを
プランにしてみよう！
- ②「拠点」を立ち上げよう！

※第3回・第4回を通して企画書をつくる



次のページからは、各グループで話し合った内容を整理して掲載しています！
整理している内容は、企画書の内容、拠点についての話し合いのまとめ、発表内容から分析した「話し合いのポイント」の3点です。
企画書の数、各グループ1つ～2つとなっています。



企画

がまごおり暮らしコンシェルジュ～人と人をつなげます～

目的・背景	・ 昔の井戸端会議のような、気軽に悩みを相談できる場がほしい。 ・ 悩みを共有しあえる、専門的なところへつなげてもらえる場として、「ここに行けば何とかなる」という最初の一步を出せる場にしたい。		
活動内容	・ 座談会 ・ 相談ボード・ポスト ・ 人財のデータベースと紹介スペース、制度を作り、専門的なところへつなげる。 ・ 気軽なものとするためコンシェルジュ診断を作る。		
ターゲット層	・ 子育て世代、高齢者など誰でも ・ 相談しづらい人(コミュニティを持っていない人)		
広報	・ SNS、チラシをまく／まず来てもらう／みらいキャンパスからの発信など、市の力を借りる／口コミ		
想定メンバー人数	・ 10人～	連絡手段	・ LINE
協力団体・パートナーシップなど	・ 市役所／保健センター／発達支援センター／シルバー人材センター／ファミサポ／コミュニティサロン結／MANARU／商工会議所		
助力を仰ぎたい人	・ 行政とつながれる人、座談会をやってくれる人／総代さん		

「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ IDOBATA:井戸端会議をする場所から
- ・ よもやまがまごおり:「よもやま話」から

●家具・備品

- ・ 自販機／敷物／いす、座いす、机／データベース用のPC／掲示板、ポスト

●その他

- ・ コーヒー、お菓子



話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ 困りごとや、相談先が分からないが気になったり、専門家に意外とつながらない、どうしたら良いかが分からないという人の相談ができる場が欲しいという思いから始まった企画ですが、特に気軽に相談したり気軽に情報が取り入れられるようにしたい、と「気軽さ」に重点を置いています。

●テーマ②

- ・ 1階土間に掲示板やポストを置きたい、自動販売機、コーヒーやお菓子など気軽に来てもらえるラフな場所づくりなどと、利用者の気軽な利用、情報取得・共有を念頭に置いて拠点に必要なものを考えていました。
- ・ 拠点の名前も、井戸端会議やよもやま話にかけたネーミングを考えていました。



目的・背景	・ 地元の良さや色々な場所に目を向けるきっかけにもなってほしい。 ・ 蒲郡以外の人にも伝わると嬉しい。		
活動内容	・ くるりんバスを使って地域の良さを再発見し、地図をつくる。 ・ 3、4人ごとにテーマを決めて地図を作る。		
ターゲット層	・ 幅広く、色々な年代が対象 ・ バスツアーは10人、地図作りは1グループ3～4人(話しやすい)		
広報	・ くるりんバスに貼ってもらう／SNS／広報がまごおりなど		
実施場所	・ 駅周辺からスタートし、それぞれの地域へ		
想定メンバー人数	・ コアメンバー3～4人	連絡手段	・ LINE
協力団体・パートナーシップなど	・ 交通防犯課／豊鉄タクシー／観光課		
助力を仰ぎたい人	・ 地図のつくり方をレクチャーしてくれる方		



「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ がまらブース:がまきたベースの上の階で五十音順だと「ベ」の上が「ぶ」であること、蒲郡を「愛している(ラブ)」から

●家具・備品

- ・ プリンター／スクリーン、プロジェクター／低いテーブル、作業机、椅子／パソコン環境、モニター／空調設備／照明

●道具

- ・ 沢山のペン、画材／タブレット、たんけんバッグ／ソフト／カメラ

●本・資料

- ・ 蒲郡市の最新版の地図／他の地域で作られているマップ／既に発刊・発行されているフリーペーパー

●その他

- ・ フリーWi-Fi／管理人／人的資源が分かるリスト

話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ マップを作成するだけでなく、今、地域ごとにあるくるりんバスを蒲郡全体で活用し、作成したマップを使ってバスツアーをしたいという発表から、将来的な拡充の方向性が見受けられます。
- ・ 幅広く色々な人がいることで、多様なマップが作成できるという視点から、ターゲット層を幅広く設定しています。

●テーマ②

- ・ デジタルとアナログについては、まだスマホを持っていない人でも地図が開けたりフィールドワークに持っていけるようにタブレットが欲しいという意見と、まずはアナログでできることがあるので画材が欲しいという意見と、双方が見られました
- ・ 管理人や人的資源が分かるリストという、拠点や企画書の実現に関わる人についての意見が出ました。



きんめだい チーム

企画①

“みらいFM局”開局！！

目的・背景	- 音から聞くと、活字とは違って立体感が出る。 - 施設の中身であまり目につかないところも発信できる。 - SNSをあまり使わない高齢者の方にもお知らせできるように、みらいキャンパスの広報として活用
活動内容	- 防災ラジオを使ってみらいキャンパスの情報を発信 - 内容は、みらいキャンパスについて、蒲郡に関すること、郷土資料についてなど、みらいキャンパスでやっていることを核とする - 発信した内容はアーカイブ化
ターゲット層	- 高齢者、ゲーム世代 - 全体に向けているが、放送する時間帯によって内容を変える
協力団体・パートナーシップなど	- 市役所 - 助力を仰ぎたい人 - コミュニティFMの先輩方

企画②

ほんものに触れるフィールドワーク蒲郡

目的・背景	蒲郡にある“ほんもの”に触れることで蒲郡の良さを知ってもらい、リアルな体験をしてもらう
活動内容	- 本物、リアルに触れるシリーズとして展開 ①ホールでピアニストによる公演(開館後)、②作家さんの講演会、③鉱物を探し、学芸員の人に解説してもらったり、図書館で調べたりする、④蒲郡の海で魚をとり、料理や水族館の人にどんな魚か教えてもらい、食べられるものは調理して食べる
ターゲット層	知的好奇心のある人、本物に触れたい人
広報	学校にチラシを渡す
実施場所	- 開館前はがまきたベースで準備・作業・オリエンテーション・情報を深める - プログラムは蒲郡の色々なところで実施

「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- 知恵蔵「未来」
- 「未来たんけん基地」
- きょう荘:「共創」から

●家具・備品

- 頑丈な本棚／座布団、クッション(くつろぎの場、講演会スペース)／プロジェクター／パソコン／DJブース／こたつ／子どもが遊べるコーナー／冷蔵庫／ロッカー

●道具

- ミキサー、外でも録音できるような機械、マイク、録音機材／防災ラジオ／調理器具(包丁、皿、クーラーボックス…)／3Dプリンター

●本・資料

- 地域の観光パンフレット／まちづくりの本／見ているだけで楽しい本(美術書、図鑑、写真集)／大きな本、小さな本／図鑑と百科事典

●その他

- Wi-Fi／おいしいお菓子

話し合いのポイント

●テーマ①

- 企画書①では、みらいキャンバスでの活動内容、進捗状況のアナウンスを目的にラジオ局の開局を考えました。防災ラジオの活用を考えていましたが、放送の手法は今後も引き続き検討する必要があります。

- 企画書②では、これまでグループでテーマになっていた「本物に触れる」を軸に、企画を考えました。

●テーマ②

- 必要な本・資料については、まちづくりに関する本や観光パンフレット等、企画書の実現に必要なものから、本には色々な切り口があり、それを通じて楽しい世界であると知ってほしいという思いから、見ているだけで楽しい本や家では買えないような本を置いてほしいという意見がありました。





企画名

人と人をつなげるためのスマホアプリ開発

目的・背景	・ 市民一人一人の幸福につなげるため。新たな価値創造のために人と人をつなげていきたい。		
活動内容	・ どんなアプリにしたいか ・ 機能を何にするか(マッチングサービス、BBS(掲示板)、しおリングサービス(本の感想をしおりを使ってやりとり)、伝言板、検索・予約機能) ・ コンテンツ作り ・ 工程表・予算を検討		
広報	・ 伝言板(最初にアプリ製作者を募集)／SNS発信		
想定メンバー人数	・ 10人未満	連絡手段	・ LINE、慣れてきたら次第にSlackに移行
協力団体・パートナーシップなど	・ 市内企業／MANARU		
助力を仰ぎたい人	・ 開発経験者／エンジニア／WEBデザイナー		



「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ みらキャンベース

●家具・備品

- ・ コーヒー(ビール)サーバー／プリンター／人工芝／本棚／スクリーン、プロジェクター／パソコン／三河木綿のカーテン／サーバー／伝言板

●道具

- ・ ペン、ふせん、しおり、ノート／延長コード／ホワイトボードシート／スマホ(各種)

●その他

- ・ Wi-Fi

話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ ワークショップ当初から掲げているテーマ「Cultivate(耕す)」を中心に、文化レベルをあげる、文化が人を作る、人がまちをつくると考え、人と人をつなぐプラットフォームづくりとしてアプリ開発を考えました。
- ・ 発表では、市民 to 市民として、市民同士で何かをつなげる場を作りたいという思いが熱く語られました。

●テーマ②

- ・ 必要な道具として伝言板があがりました。このグループでの企画書実現＝アプリ開発に向け、最初にアプリ開発者の募集を伝言板に書くと決めており、拠点でのイメージが具体的になっていることが伺えます。
- ・ 連絡手段について、皆で学びつつSlackに移行したいということから、活動を通じてメンバーもレベルアップしていきたいという思いが感じられました。



企画①

敷地で活動や空間を感じるプレイイベント

目的・背景	- 建設予定地を知ってもらう。 - 複合施設だからこそ色々なことができるアピール - 市民で活動している人を巻き込む。関心を持ってもらう		
活動内容	- 広い敷地を区切って複数イベントを行う - 繊維系イベント、演奏会、パフォーマンス、フェス(プロと市民のコラボ)、屋台・キッチンカー(蒲郡の人が良い)、夕方～夜のイベント、ナイトシアター など		
広報	蒲郡公式LINE・みらいキャンバスLINE／三河湾ネットワーク／広報がまごおり／チラシ／ポスター		
実施場所	開館前:建設予定地／開館後:新施設		
想定メンバー人数	30～50人	連絡手段	・ LINE
協力団体・パートナーシップなど	商工会議所／青年会議所／工科大／図書館／屋台ネットワーク／蒲郡の音楽関係者／商店街／市場関係者		
助力を仰ぎたい人	町内会／イベント運営に詳しい人(アドバイザーとか)		

企画②

プロジェクトアイコン、キャッチフレーズ

目的・背景	市民の認知度UP		
活動内容	- みらいキャンバス関係の広報などに必ず使用するアイコン・キャッチフレーズの作成 - キャッチフレーズ(施設名ではなく目指すもの)は市が考案、アイコンを市民に募集		
広報	広報がまごおり／市のLINE		
想定メンバー人数	5～6人	連絡手段	・ LINE
協力団体・パートナーシップなど	蒲郡市／みらいキャンバススタッフ		
助力を仰ぎたい人	アドバイザー		



「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ みらキャンBASE

●家具・備品

- ・ プリンター／上敷／ディスプレイ等(通りがかりの人に発信する)、プロジェクトの看板／棚、本棚／机とイス／PC

●道具

- ・ 音の機材(スピーカー、マイクなど)／仮設ステージ、テント

●本・資料

- ・ 図書館の絵本

話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ 市民へのみらいキャンバスの広報やPR、広報を目的とした企画書となりました。
- ・ どちらの企画も、市民の方を巻き込んだプロジェクトとなっています。また、パフォーマンスでの市民とプロのコラボ、アドバイザーとしてのプロの協力等、幅広い人々との協力、コラボによって充実する企画であると言えます。

●テーマ②

- ・ 2階だと上がりづらいということから、1階をアピールの場としてディスプレイを置きたいという、企画書においてみらいキャンバスの周知を目的においたグループらしい意見がありました。
- ・ 本・資料については、申請したら買ってもらえるようにしてほしいという意見がありました。

他自治体の施設見学ツアー



めひかり チーム

目的・背景	・ 他施設の「いいね」を探す(「良くない」も)。
活動内容	・ 近くの図書館(豊橋、幸田、岡崎、安城)へのバスツアー、施設職員レクチャー ・ その後、活動の様子などを印刷しベースへ貼り出す(ベースに来た方に、シール(いいね)を貼ってもらう)
ターゲット層	・ 一般、ワークショップ参加者(別の日程で) ・ バス40名×2回=80名
広報	・ 市のLINE/回覧板/広報がまごおり/Instagram/みらいキャンバスのLINE
実施場所	・ 豊橋まちなか図書館/岡崎リブラ/安城アンフォーレ/ハッピーネス・ヒル・幸田
連絡手段	・ LINE/Instagram/メール
協力団体・パートナーシップ など、助力を仰ぎたい人	・ 名鉄バス(三河観光)/市広報課/学校教育課/ 蒲郡市図書館



企画②

「みらいキャンバス」みんなに広げよう！！

目的・背景	・ 「みらいキャンバス」をもっと広く知ってもらい、自分たちの居場所を考える		
活動内容	・ 市内の公民館などを巡回し、活動内容を知ってもらう		
広報	・ 市のLINE／回覧板／広報がまごおり／Instagram／みらいキャンバスのLINE／学校のお便り		
実施場所	・ がまきたベース＋各公民館		
想定メンバー人数	・ 各回スタッフ4、5名	連絡手段	・ LINE／Instagram／メール
協力団体・パートナーシップ など、助力を仰ぎたい人	・ 各公民館／名鉄バス(三河観光)／市広報課／学校教育課／蒲郡市図書館		

「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ みらCANベース(MIRA CAN-BASE):CANで自分が何かできる、誰でも何かできるということを表現

●家具・備品

- ・ コピー機/活動資料を綴じるファイルを入れる棚/椅子や座布団、テーブル/プロジェクター/パソコン/ホワイトボード

●道具

- ・ 文具全般、印刷用紙、活動資料を綴じるファイル

●本・資料

- ・ 地元がわかる映像資料/福祉/教育/デザイン/保育/防災/色彩学

●その他

- ・ バス

話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ 新施設ができるまでの活動をもっと広めることを中心に考えた企画書となりました。
- ・ 企画①は、良いところだけでなく困りごとでも聞くこと、内容を拠点に貼り出し、広報活動やシール貼り等を通じた意見共有の場にすることが提案されました。
- ・ 企画②は、活動を既に知っている参加者から知らない他の市民へ広げようという、広報活動という趣旨で考えられました。

●テーマ②

- ・ 拠点の名前「みらCANベース」は、I can、You canとかけられており、「自分たちで新施設を作っていこう」という気持ちが込められています。
- ・ 活動資料を綴じるファイルや収納用の棚が欲しいという意見から、開館までの活動のアーカイブを見据えていると受け取れます。

結果の総括(全4回を通じて)

- 全4回のワークショップが終了しました。多くの方にご参加いただき、ありがとうございました！本当に多くの素晴らしいアイデアにより、「みらいキャンバス」がより具体化してきました。
- 開館に向け、市民共創の過程を途切れさせず、やりたいことに継続的に取り組むことができる仕組みとして、中央通り商店街内への市民共創プラットフォームという「場」の立ち上げを検討しています。今後は、この場を中心に、さらなる市民共創による「みらいキャンバス」づくりを活性化させていきます。
- これまでのワークショップにご参加いただいた方々はもちろんのこと、それ以外の多くの市民の方々にもこの場を訪れていただき、ともに活動し、みらいキャンバスの輪が広がることを願っています。

第1回

「施設に1日いるとしたら、何をして、どう過ごす？」から、みらキャンに必要なことが見えてきた！

第2回

キャッチフレーズを考え、施設がどのようにまちとつながったり、成長していくかを考えてみた！

第3・4回

これまでのアイデアをもとに「今から」&「新施設で」やってみたいことを「プラン」に！

第3回

活動をつづけるために必要なものは？

第4回

「プラン」を実現するための拠点の内容を具体的に考えてみた！

to be continued

これから開館まで、継続的な活動を実施し、これまで、今、(そしてみらいに)考える「やりたい」を実現する施設を実現しよう！

これからのスケジュールについて

- 基本計画は秋頃策定予定です。別途、市民の皆さまへご説明する機会を設けたいと考えています。
- 次は管理運営計画の検討に入ります。引き続き、市民の皆さまと一緒に創り上げていきたいと考えています。
- 今後、まずはみらいキャンバス公式LINEアカウント、みらいキャンバスInstagramで情報発信をしていきます！友だち追加、フォローをよろしくお願いします！



[発行] 蒲郡市教育委員会教育政策課

TEL : 0533-66-1219

e-mail : mirai-canvas@city.gamagori.lg.jp